

英米文化学会会報

第74号

平成20年2月15日



ロードアイランド州ニューポート。大西洋に突き出た岬には、海の英雄たちの記念碑が立ち並ぶ。ここニューポート出身のペリー提督は、1853年、黒船を率いて日本に周航し、鎖国の扉を開いた。それから150年余。たくさんの小さな星条旗が、夕暮れの風に吹かれていた。(撮影：佐野、2007年)

目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第125回例会のお知らせ
- ◆ 分科会報告 発禁問題研究分科会
- ◆ 大会担当より 英米文化学会第26回大会 発表者募集のお知らせ
- ◆ 財務担当より 年会費納入のお願い
- ◆ 事務局より 学会暦・会員消息

◆英米文化学会 第125回例会のお知らせ (分科会担当理事: 小林弘)

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成20年3月8日(土)午後3時00分～5時30分

午後2時30分受付開始

場所：日本大学歯学部3号館3階第7、第8講堂 <地図は4ページに掲載>

(JR御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町 他 下車)

英米文化学会総会 : 午後5時30分～6時 例会と同じ会場にて開催します。

懇親会：いこい (例会会場と同じ建物、日大歯学部3号館地下)

会費：2,000円 午後6時30分～8時30分

懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

開会挨拶

英米文化学会会長

小野 昌 (城西大学)

(3:00—3:10)

研究発表

1. 可算・不可算名詞と完了・未完了動詞の習得

—認知言語学に基づく英語教授法の実践とその効果—

(3:10—3:45)

発表 松谷明美 (高千穂大学)

佐藤順子 (拓殖大学)

司会 森 千佳子 (東京純心女子大学)

2. どうしてD. H. ロレンスは『チャタレー夫人の恋人』の第3稿を書いたのか

(3:45—4:20)

発表 中林正身 (早稲田大学)

司会 市川 仁 (中央学院大)

————— 小休止(4:20—4:30) —————

3. 英語学習に対する「やる気」について

(4:30—5:05)

発表 田嶋倫雄 (日本大学)

司会 平川敦子 (城西大学)

4. 低下しつつある受験生の英語力の根本原因は何か

(5:05—5:30)

発表 今井 博 (河合塾)

司会 小林 弘 (東京理科大)

研究発表抄録

1. 可算・不可算名詞と完了・未完了動詞の習得

—認知言語学に基づく英語教授法の実践とその効果—

松谷明美 (高千穂大学)

佐藤順子 (拓殖大学)

認知言語学では文の表層の形式と意味の関係が密接であるとされている。人間がどのように対象と接し、概念化するかを理解することができれば、可算・不可算名詞と完了・未完了動詞の区別はある程度予測できると考えられる。今回は認知言語学の視点に立って組み立てられた教材を使い、英語を学習する約150名の大学生に行った授業の結果を報告する。まず、「境界の明瞭さ」vs.「境界の不明瞭さ」、「均質である内部構造」vs.「非均質である内部構造」という2つの相対する認知概念を学習者に認識させるよう組み立てた教材を作成した。教材では、読み・書く・聞く・話す、の4技能に焦点をおいたタスクを施し、プレテストとポストテストから、学生の理解度と教材の効果を確かめた。このモデル授業の結果から得られたデータを通して、母語の日本語の文法においては明白でない可算・不可算名詞と完了・未完了動詞の区別を学習者が効率よく習得するプロセスを明らかにする。

2. どうしてD. H. ロレンスは『チャタレー夫人の恋人』の第3稿を書いたのか 中林正身（早稲田大学）

ロレンスは、『チャタレー夫人の恋人』の第2稿を書き終えていた時点で私家出版というアイデアを知ったが、その作品を出版せずに第3稿に着手した。この発表では、妻のフリーダの「第3稿を書いていたときのロレンスは、同時代人たちのものの考え方をつよく意識していた」という重要なコメントを出発点にして、第3稿の特殊性を明らかにする。つまり、第1稿から第3稿に共通して描かれている場面を取り上げて、それらの文体的技巧の変化を分析しながら、最終稿は従来言われてきているような「赤裸々な性の教本」にとどまるものではないことを指摘しつつ、第3稿を敢えて書いたロレンスは、「人間の無意識領域での情動的体験を肉体的に言語化する」ことを意図していたのだということを示す。また、ロレンスが最終稿ではとくに、当時の（あるいは現代的な）女性に対して意見を述べて教化することに執心しているさまが散見できることも証明する。

3. 英語学習に対する「やる気」について

田嶋倫雄（日本大学）

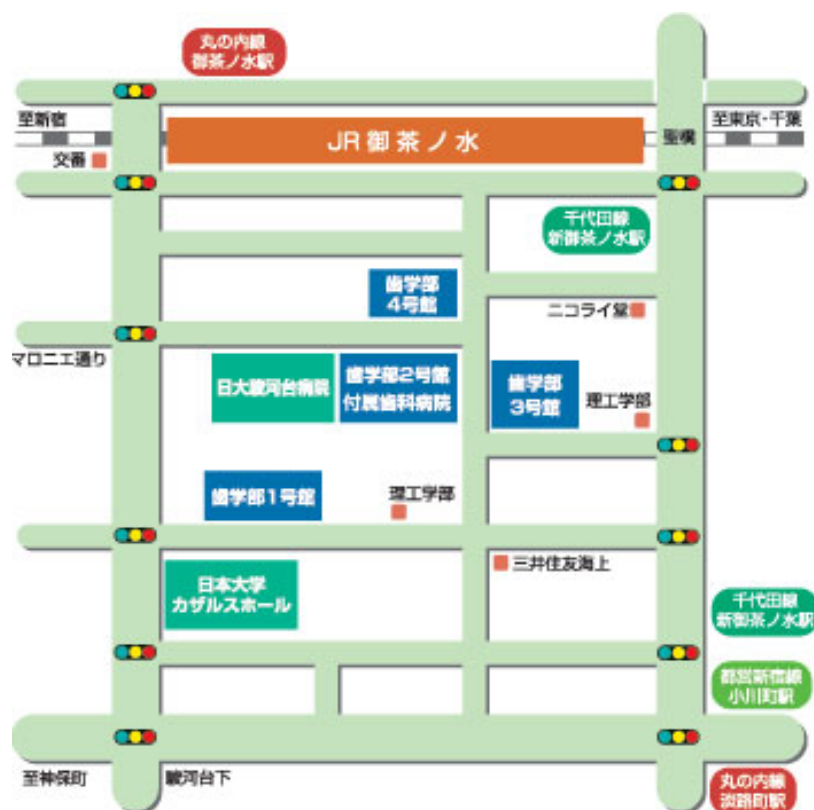
英語学習に対する情意面を検討する際、動機づけの中でも大まかな枠組みと考えられるものとしては、統合的動機づけと道具的動機づけに加え、心理学的要素を含んだ内発的動機づけ、外発的動機づけ、さらに無動機などが挙げられる。日本人大学生の英語学習に対する動機づけを検討するため、アンケート形式でこれらの動機づけを量る質問項目に対する被験者の回答に統計処理を施した。探索的因子分析を行った後、学習者背景の違いとして被験者を性別、学年別、英語資格を有しているか否かのグループ分けによって、動機づけの違いがあるのかも確認するため、因子ごとに分散分析を繰り返した。その結果、英語資格の有無の違いにより動機づけの違いが出ることが分かった。英語学習に関する情意的側面の探索的検討の概要と可能性を考察し、さらにそこから得られる情報を考慮した教育活動の方向付けについて論じる。

4・低下しつつある受験生の英語力の根本原因は何か

今井 博（河合塾）

日本人の英語学習環境は一昔前と比べれば格段よくなっているにもかかわらず、学生も社会人も英語力が昔より数段よくなったという声を聞かない。英会話(学校)がブームになること自体がその駄目な証拠だが。予備校で十有余年大学受験生に英語を教えてきて最近一番感じることは、年々受験生の英語力そして国語力が徐々に低下傾向にあることだが、同時にここ数年その究極の根本原因は、生徒自身よりはむしろ教える側あるいは社会の側にあるのではないか、ということである。高校生・浪人生・大学生の証言、教科書、参考書、問題集、入試問題等から可能な限りそれを明らかにしていきたい。同時に受験生の多数派の英語力の現状分析を通して彼らの英語力のどこが一番の問題なのかを考察する。

* 例会会場（日本大学歯学部3号館）



JR・地下鉄： JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅
 都営地下鉄 新宿線 小川町駅
 営団地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅
 営団地下鉄 丸ノ内線 御茶ノ水駅
 営団地下鉄 丸ノ内線 淡路町駅

◆ 分科会報告

<分科会名： 発禁問題研究分科会>

分科会員（敬称略）：市川仁、上野和子、小田井勝彦、相良英明 佐藤治夫、須田理恵、高島美和 中垣恒太郎、中林正身、松原典子、宗形賢二、閑田朋子

活動状況：第4回分科会会合が1月26日に、今回も佐藤治夫副会長に会場をお世話いただき日本大学歯学部で開かれました。中垣恒太郎氏が「20世紀アメリカ文化と検閲について」という題名で発表を行い、活発な意見交換がなされました。

（閑田朋子）

◆ 英米文化学会 第26回大会のお知らせ (大会担当理事：曾村 充利)
＜大会会場の決定と研究発表者募集のお知らせ＞

第26回大会は以下の要領で開催されます。

開催日程：平成20年9月13日(土)・14日(日)

場所：文京学園 軽井沢セミナーハウス (予定)

つきましては、上記大会の研究発表者を募集いたしますので、
ふるってお申し込みをお願いいたします。発表時間は30分です。

発表希望の先生は、ご氏名、所属(勤務先)を明記の上、
研究発表題名と抄録(400字)をご面倒ですが

以下のアドレスにメールでお送りください。

件名には「英米文化学会大会発表希望」とお書きください。

申込締め切りは4月13日です。

発表申し込み先：大会担当理事 曾村 充利
e-mail: MitsutoshiSomura(at)SES-online.jp

＜おことわり＞

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが、@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。



文京学園軽井沢セミナーハウス (軽井沢駅から南へ3.5km。タクシーで5分)
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 1019-247

◆年会費納入のお願い (財務担当理事：山根正弘)

2月初旬、3年間年会費未納の会員に「納入のお願い」を、通知しました。皆様の年会費により、学会の活動が支えられています。学会の運営に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。納入状況は、財務担当の山根 (MasahiroYamane(at)SES-online.jp) までお問合せ下さい。

年会費：5,000円

郵便振替番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

◆事務局より (事務局担当理事：大東俊一)

平成20年度の学会暦が決定しましたので、会員各位におかれましては、大会・例会での発表、『英米文化』への投稿、「会報」への各種情報提供など、学会活動への積極的なご参加をお願い致します。

	第126回例会	第26回大会	第127回例会	第128回例会
例会・大会	6月14日	9月13・14日	11月8日	平成21年3月14日
発表申込締切	4月14日	4月13日	9月8日	平成21年1月14日
会報投稿締切	75号=5月7日	76号=7月6日	77号=10月1日	78号=平成21年2月7日
会誌『英米文化』投稿締切	平成20年10月31日			

<会員消息>

省略

英米文化学会会報 第74号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp
年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777
学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>